



えがおの輪  
広げて広げて つなげよう  
上頓野小6年 小林美希

ありがとう  
心に残る あたたかさ  
直方南小5年 芹沢紗菜

えがおの輪  
広げて広げて つなげよう  
下境小6年 高田莞太朗

「だいじょうぶ?」  
やさしい一言 大切に  
直方西小5年 池田航太朗

守ろうよ  
誰もがもつてる その笑顔  
福地小6年 秋吉冬磨

ぼくと君は  
ちがいがあるよ とうぜんさ  
感田小5年 高尾一輝

ぼくがいる  
だから安心 していいよ  
中泉小6年 吉田瑛斗

あなたのは  
えがおはわたしの たからもの  
下境小5年 吉留優梨

人間は  
全員平等 みなちがう  
植木小6年 小野壱晟

いじめなし  
人の気持ちが 分かるまち  
福地小6年 吉田悠聖

やさしさは  
やがてみんなを 笑顔にするよ  
直方東小6年 小笠亜美

命には  
家族の気持ち つまつている  
直方一中1年 国元真凛

いま その手  
勇気を出して 差し出して  
直方一中3年 宮園耀

その想い  
言葉にしなきや 届かない  
直方一中2年 坂本大樹

顔あげて  
周りを見れば 友がいる  
直方二中3年 山田龍之介

大丈夫  
一人じゃないよ 僕がいる  
直方二中2年 岩下桜樟

お互いを  
知つてうまれる 思いや  
直方三中2年 森本夢巴

個性はね  
一人一人の 宝物  
直方三中3年 久坂萌絵

「大丈夫」  
勇気を出して 声に出せ  
植木中2年 名嶋和風

さしのべよう  
勇気優しさ 思いや  
植木中1年 石橋諒一

## 人権作文

植木中学校 三年 小野原 みなみ

先日、私はニュースで話題となっていた東京大学の入学式で述べられた祝辞を読みました。それを読んで私は、生まれもつた性別を理由に、頑張りが報われない人が大勢いるんだなと改めて感じました。なぜ性別による差別はなくならないのでしょうか。私は女性がおかれている現状について、いくつか調べてみました。

例えば、選挙で女性が立候補した際に、「家事や子どもの世話はどうするのか。」という質問が投げかけられたりすることについてです。男性が立候補しても、このようなことは言われないのでないでしょうか。

また、育児休業は男性も利用できるようになっていますが、取得率は低く、十分な体制が整っていないことが現状です。女性が外で働いていても、家事は女性がしていることが多いようです。それに加え、高齢者の介護や育児などの負担も抱えることになります。日本では法の上では男女平等だと言われていますが、これらのことから、実生活においては性別を理由にした差別が根強く残っていることがわかると思います。

最初に挙げた祝辞の中に、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんのお父さんの言葉が紹介されています。「どうやって娘を育てたのですか。」という質問に対し、「娘の翼を折らないようにしてきました。」と答えたそうです。性別関係なく、多くの子どもたちは知らず知らずのうちに、翼を折られ、自由に羽ばたくことができずになります。折られた翼を支えてあげられるような社会になるように願っています。私もまた、近い将来、社会に出ていく女性の一人として、強がらず、自分の弱さを認めて、人と支えあって生きていく人にになりたいと思います。